

当院でがんの脊椎転移の治療を受けた方へ

当院では、がんの脊椎転移がある患者さんに関する研究を行っております。皆様には本研究の主旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

【研究課題】

脊椎転移切迫麻痺病変を判定するディープラーニング AI プログラムの開発

【研究機関名及び本学の研究責任者氏名】

この研究が行われる研究機関と研究責任者は次に示すとおりです。

研究機関 東京大学大学院医学系研究科・リハビリテーション医学講座
研究責任者 リハビリテーション科 准教授 篠田 裕介
担当業務 データ収集・解析・統括

【対象となる方】

2012年4月1日から2019年9月30日までに、東京大学医学部附属病院でがんの脊椎転移に対して放射線や手術などの治療を受けた方

【研究実施期間】

2019年11月1日から、2024年9月30日

【研究の目的】

脊椎転移は、増悪すると四肢に麻痺をおこす危険があります。四肢の麻痺が発生すると、歩行が困難になり、寝たきりになる可能性があります。骨転移があるがん患者さんにおいては、脊椎転移による麻痺を予防することが治療上極めて重要です。そこで、この研究では、人工知能を利用して、麻痺をおこしそうな脊椎転移を早期発見できるような画像診断プログラムの作成を行うことを目的としています。

【研究の方法】

この研究は、既に通常診療において撮像された CT 画像を解析する後ろ向き研究で、当院で脊椎転移に対して放射線治療や手術治療を受けた患者さんの、治療前に撮像された CT 画像を用います。脊柱管内に進展した病変をマーキングして、正常部分との相違を人工知能に学習させます。特に患者さんに新たにご負担いただくことはありません。この研究は、東京大学医学部倫理委員会の承認を受け、東京大学医学部附属病院・病院長の許可を受けて実施するものです。

【研究協力の任意性と撤回の自由】

この研究のためにご自分のデータを使用してほしくない場合は主治医にお伝えいただくか、下記の研究事務局まで2020年12月31日までにご連絡ください。ご連絡をいただかなかった場合、ご了承いただいたものとさせていただきます。なお、患者さんご本人が意思決定できない場合は、ご家族からの不参加の要請をお受けいたします。

【個人情報の保護】

この研究に関わって収集される情報・データ等は、外部に漏えいすることのないよう、慎重に取り扱う必要があります。

画像データは、解析する前に氏名・生年月日等の個人情報を削り、代わりに新しく符号をつけ、どなたのものか分からないようにした上で、当研究室において篠田裕介が、鍵のかかるロッカーで

厳重に保管します。ただし、必要な場合には、当研究室においてこの符号を元の氏名等に戻す操作を行うことはできますので、研究への参加を撤回する場合はデータの破棄が可能です。

【研究結果の公表】

研究の成果は、個人が特定できない形式で、学会発表や学術雑誌及びデータベース等で公表します。収集したデータは、厳重な管理のもと、研究終了後5年間保存されます。

また、個人的なお問い合わせがあった場合、研究データをまとめた全体の結果についてお伝えいたします。

【その他】

この研究に関する費用は文部科学省の科研費から支出されています。

なお、患者さんへの謝金はございません。

本研究に関して、開示すべき利益相反関係はありません。

ご意見、ご質問等がございましたら、お気軽に下記までお寄せください。

2019年11月

【問い合わせの連絡先】

研究統括医師

東京大学医学部附属病院リハビリテーション科 篠田裕介

住所：東京都文京区本郷7-3-1

電話：03-3815-5411（内線35180）FAX：03-5684-2094

Eメールでのお問い合わせ：・・・・・yshinoda-tky@umin.ac.jp